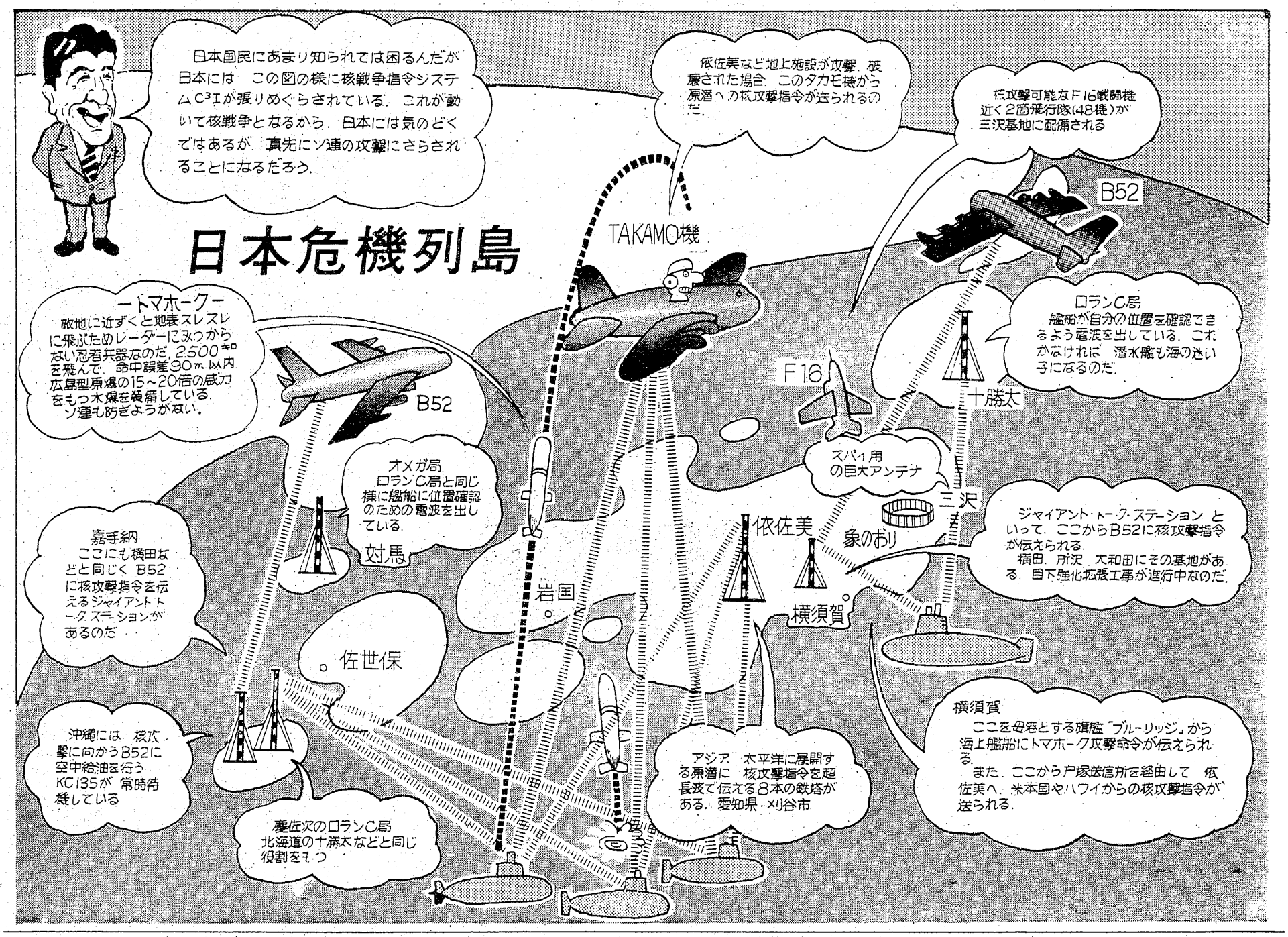
核廃絶今こそ！

イラスト地図



核、カクしかじか
疑問に答える

核戦争？ウッソー

〈問〉「今は核戦争三分前だ」なんていう人がいるけれど、大げさなんじゃないかな。核戦争が起きるとは信じられないよ。

〈答〉「核戦争三分前」というのは、アメリカのシカゴ大学研究所にある「運命の日の時計」が示している。これは、世界の著名な物理学者たちが国際情勢や核兵器の発達を考慮して、毎年発表する核戦争ぼっ発の危険度を示す象徴的な時計さ。一日の終わりを示す深夜零時を人類絶滅の時に見立てて、一九四七年のソ連の核実験成功の時に七分前に設定され、キューバ危機の時は二分前、その後の米ソ緊張緩和時代は十二分前、そして西欧への米新型ミサイル配備が強行された一九八三年末には三分前に針が進められた。

もちろん、あと何分で核戦争が起こるかだれにもわかりはしない。しかし、数百万年の人類の歴史を一日と見立てれば、あと数分で人類絶滅の危機が来ると考えても誇張じゃないよ。

核兵器は、通常兵器よりも安いコストで大量の殺傷・破壊ができる。保有国には常に使いたい衝動がある。偶然の事故で核戦争が始まる危険も大きいし、狭い地域で小規模な核兵器を使う〝限定核戦争〟でも、それが全面核戦争に広がるおそれは十分にあるんだ。

核があれば安全か？

〈問〉強力な核兵器を持っていれば他国は報復をこわがって核攻撃できないだろう。日本も核武装したら、安全になるのじゃないのかな。

〈答〉〝目には目を、核には核を〟という恐怖の均衡の考え方だね。しかし、不信と恐怖によって平和を保つのはむずかしいよ。核兵器開発の歴史を見てみると、どこかの国が強力な新兵器を作ると、遅かれ早かれ他国も同じものを作る。お互いにより強力な兵器を求めて際限のない競争になり、一つまちがえば核戦争になってしまう。

アメリカが核巡航ミサイル・トマホークを配備すると、ソ連も同じようなものを開発・配備するのは時間の問題だ。大陸間弾導弾を迎撃する人工衛星ができれば、今度はその衛星を攻撃するキラー衛星が出てくる、といったぐあいに、地上、海中、宇宙空間で使われる核兵器の野放しの発達は、人類自滅の危険性を高める一方だ。

被爆国日本は、膨大な開発費をかけて恐怖の均衡クラブの仲間入りをするよりも、冷静・着実に世界の世論を核軍縮・核廃絶に向かって組織していくことが、核時代の最高の安全保障さ。

三原則があるじゃない

〈問〉ところで、日本には「核兵器を作らず、持たず、持ちこませず」という非核三原則がある。これがある限り、核戦争に巻きこまれないだろう。

〈答〉「作らず、持たず」はともかく、日米安保条約のもとでアメリカの核兵器が持ちこまれていないのかどうか、われわれ国民は深刻な疑いを持っている。

原子力潜水艦や空母、核搭載可能な軍用機は、日本の基地にひんぱんに出入りしている。日本政府は「アメリカから持ち込みの事前協議がないから、持ち込まれていない」というだけで実地検証もしない。沖縄や本土の横田、岩国では、米軍基地内部に核に関連する施設や部隊が発見されているし、ライシャワー元駐日大使はじめ米核兵器の持ち込みがあったとする証言は少なくない。

問題は、核弾頭や核爆弾が現にあるかどうかだけでなくて、これらを実際の戦闘で動かす指揮・管制・通信・情報システム（CI）に日本列島がガッチリ組み込まれていることだ。実際の戦闘で核攻撃の指令を出すのは、このシステムだから、それがあるということで日本は他国の核攻撃の対象にされてしまうよ。非核三原則を本当に日本政府に守らせ、アメリカ政府に尊重させるには、アメリカの核戦略を基本に置いた日米安保条約を廃棄するしかないだろう。

〔問題〕下の絵は上の絵と七カ所のまちがいがあります。どこでしょう。（出題・西山　進）印刷のよごれなどはのぞきます。解答は四面に。

おことわり

八月は、反核・平和への誓いを新たにする月。本紙では小特集としたため、連載の『三池炭鉱の歴史の中から』と『許すなトマホーク』は次号へまわしました。